



Victorian Certificate of Education

2013

SUPERVISOR TO ATTACH PROCESSING LABEL HERE

STUDENT NUMBER

Figures

Words

Letter

--

JAPANESE

FIRST LANGUAGE

Written examination

Monday 4 November 2013

Reading time: 3.00 pm to 3.15 pm (15 minutes)

Writing time: 3.15 pm to 5.15 pm (2 hours)

QUESTION AND ANSWER BOOK

Structure of book

<i>Section</i>	<i>Number of questions</i>	<i>Number of questions to be answered</i>	<i>Number of marks</i>	<i>Suggested times (minutes)</i>
1	1	1	25	30
2	1	1	30	40
3	5	1	25	50
			Total 80	120

- Students are permitted to bring into the examination room: pens, pencils, highlighters, erasers, sharpeners, rulers and any printed monolingual and/or bilingual dictionary in one or two separate volumes. Dictionaries may be consulted during the reading time and also during the examination.
- Students are NOT permitted to bring into the examination room: blank sheets of paper and/or white out liquid/tape.
- No calculator is allowed in this examination.

Materials supplied

- Question and answer book of 18 pages, including **Assessment criteria** on page 18.

Instructions

- Write your **student number** in the space provided above on this page.
- Write all your answers in the spaces provided in this question and answer book. The spaces provided give you an idea of how much you should write.

At the end of the examination

- Hand in this question and answer book at the end of the examination.

Students are NOT permitted to bring mobile phones and/or any other unauthorised electronic devices into the examination room.

THIS PAGE IS BLANK

THIS PAGE IS BLANK

TURN OVER

SECTION 1 – Listening and responding**Instructions for Section 1****Text 1, Question 1 (25 marks)**

You will hear one text. It will be played twice. There will be a pause of approximately five minutes between the first and second playings of the text. You may make notes at any time.

Listen carefully to the text and then answer the questions in **JAPANESE**.

TEXT 1**Question 1**

a. イクメンとは何か。

b. イクメンが社会で注目されている証拠を二つ挙げよ。

1.

2.

c. 田村はどんな苦勞をしたか。また、それをどうやって乗り越えたか。

d. 育児介護休業法の変更点の詳細を二つ説明せよ。

1.

2.

e. なぜ、田村の会社は育児休業の取得を奨励しているのか。

You may make notes
in this space.

SECTION 2 – Reading and responding

Instructions for Section 2

Texts 2 and 3, Question 2 (30 marks)

Read the two texts and then answer the question in 900–1100 *ji* in JAPANESE.

TEXT 2

インターネットが本格的に広がり始めた 2000 年代初頭のこと、私は、友人が書いているブログを読んで、驚いたことがある。

ふだんは穏やかで、どちらかと言うと口数の少ない彼は、ブログではやたらと饒舌^{じょうぜつ}で、聴いた音楽や読んだ本の批評など、かなり辛辣^{しんらつ}だった。端々に書かれている事柄から、間違いなく、私の友人だったが、話題の選択と^{しんらつ}いい、語り口と^{しんらつ}いい、私の知っている彼とはまったく別人のようだった。ビックリしたのは私だけでなく、共通の友人たちも、「アイツ、本当はああいうヤツだったんだなあ」と、呆れたような顔で言っていた。

ネットが更に普及するにつれて、その後も何度かこういうことがあった。ミクシイの日記でも、ツイッターでも、現実^{じつじ}に私が知っている姿と、ネットの中の姿とは必ずしも合致しない。

そのうちに、まったく驚かなくなった。

人には色々な顔がある。－それは、ネットが登場する以前から、多くの人^たが知っていた。しかし、それが可視化されたインパクトは、決して小さく^くなかった。私と接していない場所^ばで、その人がどんな様子^{ようす}なのかは、かつてはまったく知る機会^{きかい}がなかったからである。その場に私が立ち会^あってしまえば、また私向け^{むけ}の顔^{かほ}が覗^{のぞ}くだろう。

では、どうして、ネットの中の彼が「本当」の姿と見えたのだろうか？そこで前提となっていたのは、やはり、「本当の自分／ウソの自分」というモデルである。

「ウソの自分」とは、他人に同調して、表面的に演じ分けて^わいる姿、というイメージだ。従って、誰もいない部屋^{へや}の中で、一人孤独^{ごどく}に書いているブログの文章こそが、彼の本音であり、本当の姿なのだろうというのが、この時の推察^{すいさつ}だった。

逆に、「あれはキャラを作っている」という友人もいた。自分たちが普段接しているアイツこそが「本当」の姿で、あのブログはネットのノリに合わせて書いているだけなのだ。

どちらも一理ある気がしたが、話していればいるほど、どっちが「本当」の姿なのかと決めようとしていること自体が不毛^{ぶぼう}に思えてきた。彼のブログは、確かにネット的なノリで書かれている。しかし、真情^{まことこころ}が綴^{つづ}られていると感じさせられる部分もある。他方で、私たちとの付き合いにしても、私たちのノリでつきあいつつ、別にウソで自分を偽^{いつはり}り続けているという感じでもない。

結局、どっちも「本当」なんじゃないのか？

(『私とは何か』－「個人」から「分人」へ、平野啓一郎 講談社現代新書 2012 版)

You may make notes in this space.

TEXT 3

ネット社会と人間関係の変化

近年、ITを使った通信技術の進歩により人間の活動範囲が拡大し、ソーシャルネットワークを通じて、趣味を共有する仲間を簡単に見つけ出すことができるようになった。

このような社会における人間関係の変化に伴い、人々は家族や地域などの伝統的な共同体の習慣から解放されやすくなった。そして、ネットで自分が選り出した人々と共同体を作るようになった。この感覚を、当然のものとして成長してきた現代の若者のあり方について意見する識者も増えてきた。

作家・演出家^{こうかみ}の鴻上尚史は、このネット社会に点在する共同体を「ネット村」と表現している。氏曰く、昔は村の中で充足していたため、村から出る必要がなかった。武家社会もしかり、商人も丁稚^{でっち}として大店に入れば、そこから出る必要はなかった。それが、明治以降の経済発展と高度成長期には、人々は都会へ出て他者と出会うことが多くなり、それが「社会に出る」理想型となった。それは往々にして、嫌な人とも酒を飲み、有難くもないのに礼を言い、悪くもないのに謝罪することだった。

ネット社会の時代になり、一見したところ、人間の活動範囲が拡大したように思われるが、実は趣味の共有で固まり閉ざされた多数の「ネット村」が出現しただけである。その「村人」は、限定された人間関係の中のみで生きている。つまり、他者を排除しながら生きているといえる。

裏を返せば、自分は相手にとって「省かれた側なのだ」と感ずることが多いのもネット社会の特徴だ。自分が所属していると自認していた村から情報が届かなくなり、自分の知らないところでの村人の活動写真や報告をネット上で発見することもあるだろう。

今日のネット社会に生きている人々は、「この村の人にはここまでの自分を見せよう」「あの村の人々には自分のこの部分は隠そう」という自分像の取捨選択を日常的に行っている。ネット上で人格の使い分けを強いられることによって、自分の多面性に向き合うことを常に余儀なくされる。村によって使い分けた人格がそれぞれの村で肥大化し、その自分像が一人歩きするようになると、一体どれが自分なのかが分からなくなる。つまり、ネット上の自分に現実の自分が吞まれるという病理に陥るのだ。

それと同様に、親しい人々の意外な部分をネットで垣間見る機会も多く、その度に戸惑い、大きなストレスとなる。

ただ、ネット社会が現実社会となりつつある現在、そこに境界線を引き、その人間関係のあり方の違いについて考えること自体が無意味なのかもしれない。

Question 2

ネット社会の到来で人間関係のあり方が大きく変化したと言われて久しい。テキスト2と3を使って、「ネット社会を生きる」という題で地域のニュースレターに載せる記事を書きなさい。最近のネット社会のあり方について説明し、その中で生きやすさと生きにくさについて論じること。また、自分の意見やネット社会について気付いた点も含めること。(字数:900-1100字)

You may make notes
in this space.

A large rectangular area containing a grid of 20 rows and 20 columns of small squares, each with a dashed border, intended for writing or drawing.

A large rectangular area containing a grid of 20 rows and 20 columns of small squares, each with a dashed border, intended for writing answers.

A large rectangular area filled with a grid of dashed lines, intended for handwritten answers. The grid consists of 20 rows and 30 columns of small squares, each formed by two horizontal and two vertical dashed lines.

SECTION 3 – Writing in Japanese**Instructions for Section 3****Questions 3–7 (25 marks)**

Answer **one** question in 1000–1200 *ji* in **JAPANESE**.

Space is provided on the following page to make notes.

Question 3

日本の大学では4月に入学することが一般的だが、4月入学とあわせて9月入学も実施している大学もあり、9月入学に全面移行することを検討している大学もある。大学受験を経験しようとしているあなたは、このことに興味を持ち、教育雑誌の投稿欄に自分の意見を投稿することにした。9月入学制の是非について考え、投稿文を書きなさい。

OR**Question 4**

2012年から、日本の中学校では武道が必修科目になった。あなたはこのことについて、高校生の弁論大会で考えを述べることになった。武道必修化の功罪^{こうざい}について考え、スピーチ原稿を書きなさい。

OR**Question 5**

携帯電話の普及により子供も持つようになってきたが、それについて世間で議論されている。あなたのおばが、小学校4年生の子供に携帯電話を持たせるか迷い、若い世代であるあなたに相談してきた。子供が携帯電話を持つことの利点と問題点を挙げた上で、あなたの考えを含めたメールをおば宛^{あて}に書きなさい。

OR**Question 6**

日本の地方自治体が、まちおこしの一端事業で高校生にイベント案を募集し、あなたの考えたまちおこしのイベント案が優勝し採用された。そのイベントが行われた一日の日記を書きなさい。

OR**Question 7**

電車で寝ていて乗り越えてしまい、起きたら全く知らない駅に着いていた。そこから始まる物語を高校生読者のために書きなさい。これは高校生小説コンテストに出すためのものである。

You may make notes in this space.

A large rectangular area containing a grid of 20 rows and 16 columns of boxes, designed for handwritten responses. Each row is separated by a solid top line and a solid bottom line, with a dashed midline. Each column is separated by solid vertical lines.

Assessment criteria

Section 1: Listening and responding

- the capacity to understand general and specific aspects of texts
- the capacity to convey information accurately and appropriately

Section 2: Reading and responding

- the capacity to identify and synthesise relevant information and ideas from the texts
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy, range and appropriateness of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)

Section 3: Writing in Japanese

- relevance, breadth and depth of content
- appropriateness of structure and sequence
- accuracy of vocabulary and grammar (including punctuation and, where relevant, script)
- range and appropriateness of vocabulary and grammar